

■日 時 令和8年2月2日(月曜日) 午後6時30分～8時

■場 所 武蔵野市役所4階412会議室

1 開会

2 障害者福祉課長あいさつ

3 配付資料確認

4 議事

(1) 専門部会の活動報告について

【委員】(相談支援ネットワーク部会)

相談支援ネットワーク部会はこれまで5回開催され、ライフステージの中でこぼれ落ちることのない相談支援を行うにはどうしたら良いかというテーマで相談支援のあり方について話し合ってきた。現状の課題として、①進級・進学時に支援が途切れてしまうケース、②当事者本人だけではなく高齢の家族も含めた支援が必要なケース、③手帳を持たない発達障害等の方が進学・就職でつまずいて初めて福祉につながるケースがあり、この3点について部会の中で深掘りしてきた。今年度のまとめとして、これらの方に支援を提供していくことで、将来どのような効果が期待できるかという点について整理し、表にまとめている。来年度は相談に関わっている人たちがどのようにつながっていけるかというところを具体的に考えていきたい。

【委員】(地域移行部会)

今年度は、長期入院患者を対象とした動機づけ支援を行うにあたってのニーズ調査の準備を進めてきた。まず調査を行う病院を選定し、調査項目、依頼文の内容、委員の役割分担等について検討を行った。会長名で病院へ依頼文を提出することも決まっている。実際の調査実施時期は来年度になる見込みである。

地域移行部会は「にも包括」の協議の場として位置づけられており、今年度は初めて協議の場を設けた。来年度は3回程度の協議の場を設けて、障害福祉計画の実態調査を基にグループワーク等を行う方向で検討している。

【委員】(住まい部会)

住まいというテーマは範囲が広いので、今年度は「一人暮らし」に焦点を当てて検討している。一人暮らしをする人が利用しやすいパンフレット、リーフレットを作成するために、部会員が関係者や利用者、家族への聞き取りを行い、ニーズ把握を進めている。

聞き取りの中で、特に知的障害や自閉傾向のある方は初めから一人暮らしという選択肢を考えていなかったということがあったので、パンフレットは一人暮らしの楽しさが伝わるようなポジティブな内容にしようということで進めている。武蔵野市に特化した情報も入れながら、当事者や支援者にとって有効なものにまとめたい。来年度はグループに分かれて実際の作業を進めていく。

【会長】

住まい部会の活動報告の中で、関係者から聞き取った内容として他の自治体の様子

等も挙がっている。このような内容をパンフレットに載せる予定か。

【委員】（住まい部会）

そのまま載せるというわけではないが、聞き取った内容を生かしながら作っていきたい。

【委員】（交流・つどい部会）

部会としては開催していないが、直近の活動として1月8日に各コミュニティセンターの代表が集まる会議が開催され、交流・つどい部会と当事者部会から部会員が出席した。会議では、けやきコミセンでのこれまでの取組経過を説明し、今後の施設改修や備品購入等の際には当事者としてバリアフリーについて一緒に考えることができるので、ぜひ声をかけてほしいと話した。会場となった西部コミセンは和室にスロープが設置されており、実際に車椅子で入室する様子を共有した。会議では、当事者の声を聴いてほしいというメッセージを真剣に受け止めていただいた。また、境南コミセンでは非常時に車椅子の方が避難するための備品を所有しており、その情報共有も行われた。コミセンを所管する市民活動推進課の職員とも話す機会があり、コミセン関係者を対象とした研修の検討も可能とのことだったので、今後もコミセンとの交流について検討していきたい。

【委員】（当事者部会）

コミセン以外にも今後の改修・改築が計画されている施設があるので、市役所内でうまく連携してほしい。特に学校は地域の避難所になるので、様々な視点を取り入れられように、コミセンでの取り組みを他の施設に拡大してほしい。

【会長】

市の施設を改築する際にバリアフリーについての検討や手続きはどのようにしているか。

【事務局】

市施設の新築・改築にあたっては、都のバリアフリー条例等で定めるバリアフリーの基準を満たすことが求められる。不特定多数の方が利用する施設については、例えば移動円滑化経路の確保や、スロープの勾配・段差等について車椅子利用者が介助なしで利用できることなどが求められる。こうしたバリアフリーへの配慮については、まちづくり条例の協議や建築基準法の確認の中でも確認を受ける。すべての方にとって利用しやすい施設であることが理想ではあるが、一方で、視覚障害者向けのブロックが車椅子利用者にとっては段差になってしまう場合等、障害種別によって必要な配慮が分かれる場合もある。他にも敷地の高低差等の様々な条件を組み合わせる中で、設計者や所管部署が工夫しながらバリアフリーについて検討していく。

【委員】（交流・つどい部会）

コミュニティセンターは地域の方が運営しているので、どのような福祉用具が必要なのか、当事者と一緒に検討する機会があると良いという意見をいただいた。

【委員】（当事者部会）

バリアフリーネットワーク会議に参加している部会員から、点字ブロックの敷き方や壁の色合いのコントラスト等、いわゆるユニバーサルな視点を取り入れられていない施設があり課題だと聞いている。

【事務局】

まちづくり推進課が所管するバリアフリーネットワーク会議は、まちづくりにおけるバリアフリー化を推進するため設置されており、当事者部会からも部会員が参加して意見をいただいている。建物の設計をする際に、意匠の観点から意図的にあるものを目立たせない、気づきにくいようなデザインにすることがある。障害のある方にとってどのようなデザインが望ましいのか、一人一人が意識できるようにしていくことが大切だと考える。

【会長】

この問題は障害福祉の枠だけで解決できることではないので、そうした会議体がしっかり機能することが大事だと思う。改築・新築のハード面については専門的な協議の場で検討していく内容なのでこの協議会として関わっていくところではないと考えるが、ソフト面も含めてどのような工夫ができるかという点については、これまでの協議会の知見を生かしていけると良い。今回のコミセンとのつながりをきっかけとして、そうした流れが広がっていくと良い。

【委員】（当事者部会）

当事者部会では、部会員が日頃から感じている困りごと等を共有している。その中で、生活環境の変化により、これまで利用できていたサービスが利用できなくなったという事例があった。具体的には、介護付き有料老人ホーム入所に伴い同行援護サービスが使えなくなり、移動に支障が生じている事例が共有された。移動の自由の確保について、年齢やライフステージを問わず、改めて考えていく必要があると感じている。

衆議院選挙が行われることになり、実際の体験を踏まえて話し合うことにしている。候補者についての情報提供の在り方について、今後も選挙管理委員会と協議を継続したい。

来年度、バリアフリーについて考える取組として、旧赤星邸の見学を予定している。

(2)全体会の実施内容について

【事務局】

資料1について説明。

【会長】

本日はグループディスカッションで扱うテーマについて協議したい。まずは副会長と私から案を紹介するので、皆様にも意見を出していただきたい。

副会長からは、「分野・種別を超えたつながりをつくるための課題や具体的な仕組み、取り組みについて話し合おう」という提案を頂いた。相談支援ネットワーク部会の報告にあった「切れ目なく」というのは分野や障害種別についても同じことが言えると思う。例えば教育や医療といったことも含めて、分野や障害種別を越えたつながりをつくるためにどんな課題があって、それを乗り越えるために何が必要か話し合おうというアイデアです。

私からは「武蔵野市の自立支援協議会が担う役割はなんだろう」というテーマを提案したい。この協議会が設置されてからかなり時間が経っており、各部会が様々な活動を進めているところだが、改めて基本に戻って自立支援協議会が担う役割について考えてもらう機会にしてはどうか。

【委員】

会長の案に賛成したい。平成27年度のサブタイトルに「障害のこと、協議会のことを、もっと皆に知ってもらうためにできること」というテーマがある。コロナ禍まではふれあいカフェやバス営業所との交流など、いろいろな取り組みをやっていた。それが各部会の活動がより専門的になり、なかなか手が回らなくなっている。シンプルに、障害や協議会のことをいかに知ってもらうかという案を出し合ってみるのも良いと思う。

【委員】

部会を越えてというのは非常に良いと思う。先日、地域で避難所の開設訓練があり、その中でペットの避難のことが問題になった。発災時の避難所の状況を考えるとペットにとって十分な環境を確保できないので、ペットを連れてきた人はお断りすることになる。それではかわいそうだからということで、避難所の中でペットを受け入れようとすると、今度は動物アレルギーがある人や臭いが嫌だという人もいる。この問題に答えは無いが、いざ地震が起きたらどこかで折り合いをつけるしかなく、その時には同じ地域に住んでいる仲間として互いに譲り合っていくしかないと思う。こうした地域のつながり、結びつきをつくっていくことが今後の課題だと思う。

【委員】

部会のメンバーも入れ替わっているので、過去のテーマで改めて話し合うのも良いと思う。各部会から議論したいテーマを集めたうえで複数のテーマを設定し、関心のあるテーマのところに集まって協議するのも良いと思う。また、部会員のみなさんが様々な会議体に参加しているので、その活動内容について情報共有しても良いと思う。

【会長】

バリアフリーネットワーク会議のように、市内にはいろいろな会議体がある。他の会議体の活動を知らない、協議会が何をすべきかが見えてこない部分もあるので、全体の中でこの協議会を俯瞰して見るというのも大事だと思う。

【委員】

自立支援協議会の役割について改めて考えるという案に賛成したい。協議会の目的は簡単に変えるべきではないが、目標については時代の変化や社会情勢に合わせて改めて検討しても良いと思う。各部会に当事者が参加しているのは武蔵野市の良いところなので大事にしていきたい。例えば、災害に対する自立支援協議会の関わり方、障害のことを理解してもらう取組など、3つぐらいのテーマを決めた上で、それに向けた自立支援協議会の役割を考えてみると良いと思う。

【委員】

交流・つどい部会から報告のあったコミセンとの連携の取り組みについて、コミセンの方から、バリアフリーについて相談できることがわかって良かったと大変喜ばれた。私もまだ協議会のことをよくわかっていないので、この協議会で勉強したことを多くの人に発信していきたい。

【委員】

自立支援協議会の役割については改めて考えたいと思っていた。グループディスカッションのテーマは、参加者が所属する事業所の事業内容と紐づけて考えられるものが良い。災害に関するテーマだと、どこの事業所でもBCPに関する研修等で取り組

んでいるので、活発な話し合いができるのではないか。

【委員】

相談支援事業所の方とは日頃から話ができるが、医療関係の方とは関わる機会がないので、副会長の提案にあったような、分野・種別を越えた話ができるとすごく勉強になる。また、住まい部会でオーナーが障害者を受け入れてくれないという話を聞いて、障害について知らないから怖いという方も多いと思うので、障害について知ってもらうための活動について話し合えたら良い。

【委員】

私が所属する事業所でも住まいに関する課題を抱えている方がいて、地域課題になっていると思う。当事者側に課題がある場合もあるが、やはりオーナー側が受け入れてくれないということもあるので、障害について知ってもらうところや、自立支援協議会が担う役割というのを改めて確認するというのが、今回のグループディスカッションのテーマとしては良いと思う。その結果として、時期の部会構成を考えるとところにつなげて行けると良い。

【委員】

これまでのテーマ設定の経過について伺いたい。テーマは何か連続性を意識して決めていたのか、それともその都度検討したい内容を話し合っているのか。また、グループディスカッションの成果はその後どのように使われていくのか。

【会長】

全体会のテーマについて、継続性は特に意識していない。協議会全体で共有したいこと、意見交換したいことを各年度で考えている。全体会ではグループディスカッションで意見を出してもらうのと合わせて、アンケートを実施している。そうして出てきた意見や感想などを踏まえて最後の親会で今年度のまとめをし、また次期に向けての課題を確認するといった形で取り組んでいる。

【委員】

福祉人材の養成に携わっているが、今はとにかく人がいない。協議会や自治体ですばらしい仕組みをつくっても、それを現場で回す人がいなくなっていく。少子化が加速していく中で福祉系の大学や専門学校が閉じてしまい、福祉を担う人材がますます少なくなっていく。そうすると福祉に携わっている我々だけではどうにもならないので、やはり市民の方とどのように一緒にやっていくかということが大切で、市民の方に手伝ってもらわないと福祉の現場が回らなくなっていくことが想像される。そうすると、協議会で議論したことを踏まえて市民と協力していくためには、協議会の存在や役割を市民に知ってもらい、関心を持ってもらうことが大事になる。協議会の役割にもつながるが、グループディスカッションを通して、どのようにして市民と協力していくかという点を考えてみてはどうか。

【会長】

福祉の現場では人が足りなくて現場が回らないことを痛感しているが、人材を増やすことは難しい。様々な形で担い手を増やそうと考えた時に、やはり市民の協力が必要であり、そのためには市民に私たちが議論していることを知ってもらい、それぞれが地域づくりの主体であることを共有する必要がある。みなさんと意見交換をする中

で、その役割が協議会としてすごく重要だと思った。

【委員】

武蔵野市の協議会では、障害者についての協議が中心で、児童についての話題が少ない。こども家庭庁の障害児支援部会において、地域自立支援協議会の子供部会で挙がっている課題も見据えて検討するとなっているが、武蔵野市における子供部会はあるのか。また、専門部会の名簿の一番下にその他の機関の欄があるが、地域移行部会以外の専門部会についても、教育や医療といった外部の機関に参加してもらってはどうか。

【会長】

その他の機関に参加してもらおうというのは、部会活動についてか、それとも全体会についてか。

【委員】

全体会に参加していただくことをイメージしている。

【会長】

児童に関する協議の場の必要性については、以前に協議会の在り方について検討した際に議題として上がったことがあるが、その後は継続して協議していなかったと思うので、今後の課題として次期の活動について協議する際に改めて発言いただきたい。

その他の機関の参加については、例えば地域移行部会の場合には病院の方に参加してもらっている。多様な方に参加いただく方が良いと思うので、各部会の中で協議し、必要があれば事務局と相談して進めていただきたい。全体会への参加については、初期の頃はもっと多様な方に参加いただいていた記憶がある。多くの方に活動を知ってもらおうという意味では、全体会を聞いてもらうのも良いと思うので今後の課題としたい。

グループディスカッションのテーマについては、皆様からいただいた意見を踏まえて正副会長と事務局とで協議、決定したい。

(3)その他

・障害者福祉についての実態調査の経過報告について

【事務局】

障害者福祉についての実態調査について、12月2日～23日の期間にアンケートを実施した。暫定での回答率は6割強で概ね前回と同水準である。次回の親会では集計結果の報告書の概要版を配布できる見込みである。

以上